

# 経営比較分析表（令和2年度決算）

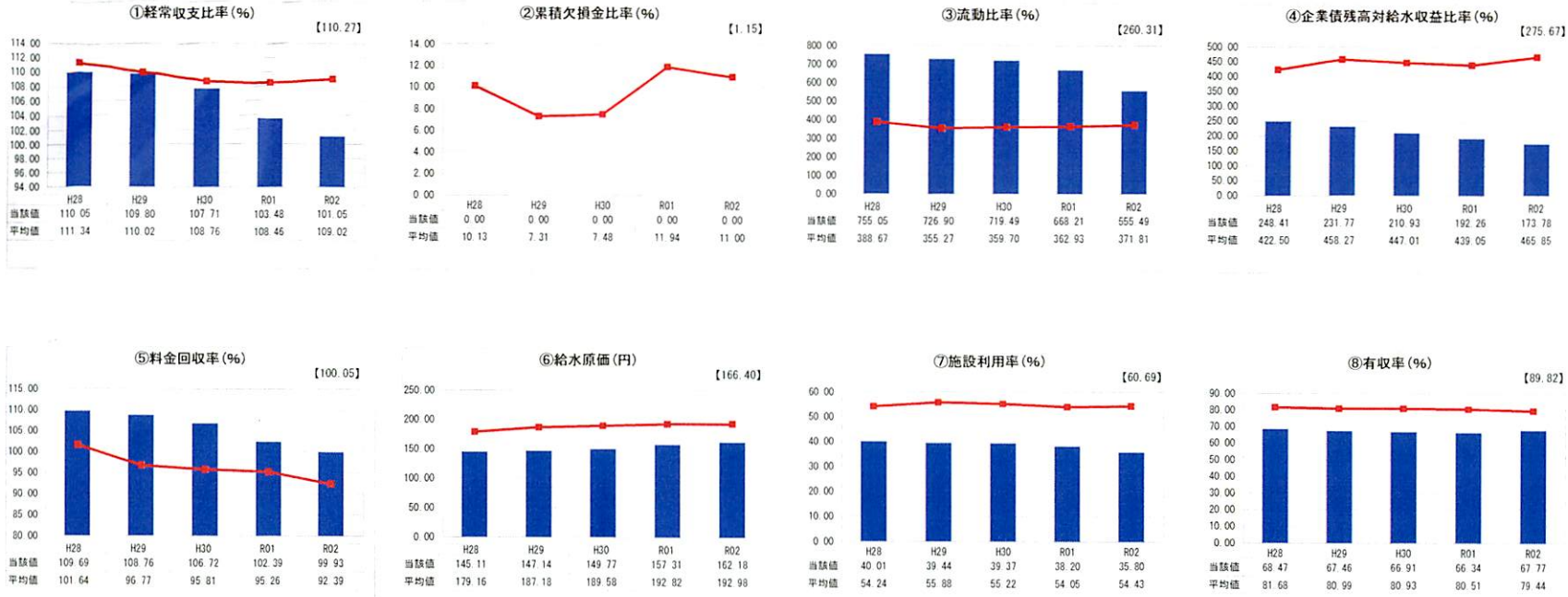
静岡県 東伊豆町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	84.81	97.62	2.849	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
11,817	77.81	151.87
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
11,512	16.22	709.74

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
[ ] 令和2年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」は、100%を上回り黒字を確保できたものの、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言の影響等により、主要産業である観光業の水需要が減少した。また、令和元年度に発生した台風被害の対応経費が増加したことにより、比率が減少傾向にあるため今後留意が必要である。

「②累積欠損金比率」は0%であり良好な状態である。

「③流動比率」は減少傾向ではあるが、類似団体平均を大きく上回り、支払能力は高い水準である。

「④企業債残高対給水収益比率」は、新規発行を抑制していることから類似団体平均を下回っているが、老朽化の進んでいる施設・管路の更新が控えているため計画的な投資の検討が必要である。

「⑤料金回収率」は、主要産業である観光業の低迷による収益の減少と、維持管理費の費用増加により比率が100%を下回った。

「⑥給水原価」は類似団体平均を下回っているが、コロナ禍の影響による水需要の減少や、令和元年度に発生した台風被害の対応経費増により増加した。

「⑦施設利用率」は、現状観光来遊客の水需要も考慮した施設規模となっているため、観光客の減少や人口減少を踏まえ、ダウンサイジングやスペックダウンを進めていく必要がある。

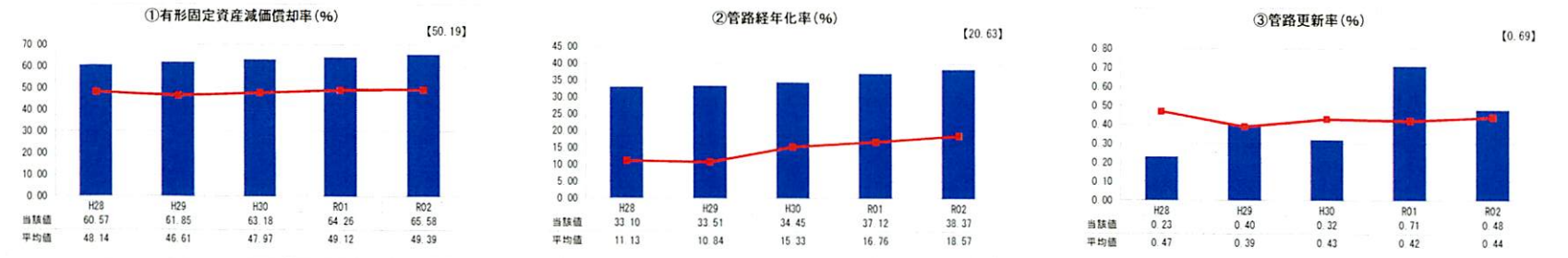
「⑧有収率」については、類似団体の平均を下回っているため、順次漏水箇所の特定を急ぎ、管路の更新等も計画的に取り組んでいく。

### 2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産減価償却率」「②管路経年率」とともに類似団体平均を上回り、施設の更新・管路の更新が遅れている。

「③管路更新率」は本年度類似団体平均値を僅かに上回ったものの、施設・管路の更新が遅れていることから、施設整備計画に沿って計画的に更新していく必要がある。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

「①経常収支比率」は100%を上回り経営状況は健全な水準を保てたものの、比率は年々減少傾向である。施設・管路の老朽化への対応が必要な状況であるため、各計画に沿って施設・管路の更新を計画的に進めることで、ダウンサイジングなどコスト削減を図り、健全で効率的な経営を実現していくことが重要である。料金収入の減少、更新需要の増加という状況の中、中長期的な視点に立った経営戦略が重要であり、適切な資産管理を実施しながら収支改善に向けた料金水準の見直しなど経営基盤の強化にも取り組み、健全な経営に努めていく。